

平成22年度第2回港区3R推進行動会議議事録（要旨）

平成22年8月24日

まとめ

- 親子対象の段ボールコンポスト講習会を7月23日（金）に開催した。フォローアップ講習会を9月26日（日）に開催する。
- 10月区役所展示について、3R推進行動会議メンバーの所属団体や関連団体へは、個別に出展依頼をする。その際、「3Rとは何か」「3R推進行動会議の取組み」「事業者や地域の取組み」のようなストーリーを作成し、わかりやすくする。
- みなと区民まつりブース出展のリユース食器について、旗振り役としてNPOや大学生を運営メンバーに巻き込めないか。また、リユース食器体験についても実施方法を工夫する必要がある。

区挨拶

- 容器包装プラスチックと製品プラスチックを資源にするのは23区で港区のみ。製品プラスチックに関しては約95%がPP（ポリプロピレン）で組成されているのでリサイクルしやすい。今後、製品プラスチックは製品プラスチックのみでのリサイクル方法を選択していくことにより、より環境負荷の少ないものにしていきたい。

1. 「親子を対象とした段ボールコンポスト講座」報告

事務局からの説明

- 平成22年7月23日（金）にリーブラにて開催した。
- 小学生16名とその保護者計28名が参加。
- 港区3R推進行動会議委員の藤野珠枝氏と檜原村立檜原小学校教諭の岡田信一郎氏を講師に招き、また、昨年度の段ボールコンポスト受講生2名が協力し、実施した。
- 平成22年9月26日（日）にフォローアップ講習会を開催。

意見交換

- できた堆肥の用途についても考えた方がよい。
- 堆肥が区民の目に見える形で活用されることが好ましい。
- 高齢者も含め、様々な年齢層が参加できる段ボールコンポスト講習会も企画してほしい。
- 参加者をリーダーに、今後は地域単位での開催もできるのでは。
- 学校給食の生ごみを使って、子どもたちにコンポストを広げるのも面白い。

2. 「港区役所ロビーパネル展示会」開催

事務局からの説明

- 平成22年10月25日(月)～29日(金)に港区役所1階ロビーを使い、3R推進行動会議の活動や、委員の所属団体の活動を中心に展示会を開催する。申込み締切りを9月17日(金)とする。

意見交換

- 3Rとは?という基礎的なことから展示を始めてほしい。
- 必ずしも団体で区切るのではなく、3Rの流れが分かるような配列にするといい。
- 3R推進行動会議委員で展示会を一緒につくっていくようにする。
- 広く一般からの出展も募集した方がよい。
- 団体への出展依頼は、具体的なコンセプトや展示内容を区から提示してほしい。
- 年度末のフォーラムで行なう展示との違いをはっきりさせた方がいい。

3. 「2010みなと区民まつり」出展

事務局からの説明

- 平成22年10月9日(土)10日(日)に開催。
- リユース食器体験や廃食油のモデル回収等を行う。それらに係わるパネル展示やアンケートを行う。今年はテント2張。
- ブース運営は、3R推進行動会議メンバーとの協力で行なう。

意見交換

- 3R推進行動会議メンバーはそれぞれの団体で出展があり、ブース運営に関わるのは難しい。
- リユース食器体験の運営主体は誰になるか。昨年度結成した、区民まつりリユース食器プロジェクトの大学生に中心になってもらってはどうか。または、区内のリユース食器活動を行っているNPO等に協力をしてもらい、学びの機会にするのもよい。
- 単にリユース食器を使ってもらうのではなく、実際のイベント同様、簡単に洗うところまでやってもらった方がいい。
- リユース食器について、デポジット制度を行うのもよい。
- リユース食器を広めるために、多くの出店者にアピールをする必要がある。
- 芝浦運河まつりでは、「リユース食器部会」が運営を行っている。食品で出店する団体に使ってもらうように働きかけている。お皿1種類1500枚程度を使用。リユース食器だけでなく、ごみの分別ステーションでの分別指導も行い、2つの柱でごみの減量に取り組んでいる。

4 . 平成 2 2 年度 3 R 推進事業の進め方

事務局からの説明

- 学習会運営支援として「食品ロス」学習会、スーパーマーケット見学会、お弁当教室を行なう。
- 在勤者 3 R セミナーとして、お弁当教室、小規模事業所を対象とした普及啓発事業を行なう。
- キャンペーン運営支援として、大学生によるリユース食器活用プロジェクト、区民まつりでのブース出展、芝浦運河まつりでのリユース食器活用支援、区役所ロビー展示を行なう。

意見交換

- 学習会について、若年層をターゲットとするのであれば土日開催することも考えた方がよい。
- ドギーバッグを含む食品ロス学習会を 1 1 月に行うのは、忘年会シーズンに向けて実施できればよい。
- 年度末のフォーラムも分かるようにスケジュールに記載しておく。

5 . その他

- 講座一つひとつを単発で実施するのではなくストーリーとして展開し、それを広めていく必要がある。
- きちんと分別すれば資源になるものがごみとして出されている。ごみとして出すよりも資源として出した方が安く済むこともある。機密書類についても資源化が進んでいる。
- シュレッダーごみがトイレットペーパーになる機械があるので、見てみたい。